

# 札幌原則で

## 市長、助三年計画 役説明

安達市長と淡川助役は二十八日の市議会議員協議室で国立職業補導所の小樽補導所を視察した。

補導所は原則として府県庁所在地に設けるように政府の方針が決つていたが札幌の了解をえて話を進めこのほどようやく本決りとなり、二、三日中には正式認可が来ると思つてゐる。場所も「札幌原則」と照して小樽市中心部は無理だから札幌に近い磯函にした。誘致に当つては土地は提供する条件だから交渉進展に伴ひ物色したが

## 和やかに商大 新入生歓迎会

小樽商大の新入生歓迎委員会が五月晴れに恵まれた二十八日午前十時から同大学の緑の芝生のうえで和やかに繰りひろげられた。この日春がすみにつつまれたミナトを望む砂庭には紅白のまんまくを張りめぐらし、教授も学生も職員もこの日はかりは難解な学理の探求を忘れて仮装行列やアベック競走に打腫したり、野外特設売店の豚汗に舌鼓をうつなどうららかな日の光を浴びて楽しいひとときを過ぎたが、同夜は赤々と燃える焚火を囲んで踊り狂うファイアーストームで青春の情熱を爆発させるなど

終夜にわたつて思い出の学園生活の一瞥を綴つた。  
(写真はクイズ競走)



終夜にわたつて思い出の学園生活の一瞥を綴つた。  
(写真はクイズ競走)

## 潮陵定時制

定時制の高校が高校野球に参加してゐるといふケースは全道でも珍しく小樽地区ではもち論この学校唯一つである。昼は勤務、夜は学校という二股かけている選手達だけに練習時間は極度に制限されせいせい五時から六時半ころまでが、いいところでチーム全員が揃つて練習に参加することにはまずないと

## 独得な守

### 全て

めか予選では常に緒戦で敗れ未だ一度も二回戦へ進んだことなしという不運のチームである。投手の川田が年齢の制限で出場できなくなつたのは痛いのが、今年も昨年も同じく川田が、

年の団体の高校野球の本道代表となつた札幌潮陵高校の捕手をホツとしていた行跡を主宰に小樽青森高校から転校した加藤を投手に三塁手、遊撃手、二塁手、一塁手、捕手、投手、

明した。

補導所は原則として府庁所在地に設けるように政府の方針が決つていたが札幌の了解をえて話を進めこのほどようやく本決りとなり、二、三日中には正式認可が来

ると思つている。場所も「札幌原則」と照して小樽市中心部は無理だから札幌に近い銭函にした。誘致に当つては土地は提供する条件だから交渉進展に伴い物色したが

終夜にわたつて思い出の学園生活の一芥を綴つた。

(写真はクイズ競走)

### 和やかに商大 新入生歓迎会

小樽商大の新入生歓迎園遊会が五月晴れに恵まれた二十八日午前十時から同大学の緑の芝生のうえで和やかに繰りひろげられた。この日春がすみにつつまれたミナトを望む秘庭には紅白のまんまくを張りめぐらし、教授も学生も職員もこの日はかりは難解な学理の探求を忘れて仮装行列やアベツク競走に打興じたり、野外特設売店の豚汗に舌鼓をうつなどうららかな日の光を浴びて楽しい一ときを過ぎたが、同夜は赤々と燃える焚火を囲んで踊り狂うファイアーストームで青春の情熱を爆発させるなど



### 潮陵定時制

定時制の高校が高校野球に参加しているというケースは全道でも珍しく小樽地区ではもち論この学校唯一つである。昼は勤務、夜は学校という二股かけている選手達だけに練習時間は極

多くまとまつた練習もしているから昨年のようなことはなく、ますどんな強チームにブツかつてもはすかしく試合はしないですみそうです」と安井教官は控え目に語つているが選手達の意気込みはなかなかすく、昨

部で 運ん う。全 部 下 が、 十 予 刷、 数 与、 買 資 の を 地

# 一日から

## 国鉄夏ダイヤ

### 混合列車も解

夏ダイヤの中心に作りかえた週期的なダイヤで、列車の大膽なスピード・これ、これを機に走るより停る時間の長かつた支線区の混合列車解消、本道の列車ダイヤは全く面目を一新、本州なみの便利なダイヤとなる。い冬ダイヤにもどる予定だが、夏ダイヤに伴う増発列車は総計九十二上り急行二列車「大雪」の函館―旭川間四十五分スピード・アツプを五のスピード・アツプが行われる。

夏ダイヤの主な点を拾うと  
 △函館―網走間急行一、二列車  
 「大雪」は旭川打切りとし函館―旭川間の急行列車とし、函館―旭川間で下りは二十分、上りは四十分のスピード・アツプを行う。  
 △函館―釧路間急行四、五列車  
 「まりのも」は札幌以東で下と上も二時間前後のスピード・アツプを行う。  
 △これに伴い、帯広での急行四、五列車は早朝、深夜の発着となり、ま

### 聴講生に警官一名

### 学生側で再審議を再

【小樽発】ことし四月小樽商大の聴講生として入学を許可された五人のうち一人が現職警官であることから、議会、新聞会などではこれを「学園の自由を侵害するもの」として『小樽商大緑丘新聞号外』（五月十三日付）（五月十四日付）』でこの問題を全面的に取上げて攻撃する一方、近日中に開かれる学校側との話し合いで入といつており、成行きが注目される。

問題にされた二人の警官は小樽署勤務巡查石出利雄氏（三〇）と札幌中央署勤務司法巡查本多考一氏（三〇）でこの四月教授会で過去の学歴から学力ありと判断し、いわゆる試験を行わずに聴講生として許可したものだ、これについて「緑丘新聞」号外は「聴講生に現職警官学内に非難の声高まる」との見出しで岡氏の経歴、選科科目などを掲載あわせて警官の職にあるものが学園にあることは反対である旨記しており「委員会ニユース」も「現職警官の職をなぜ問題とし

車にすぎない。たとえ現在は勤務外の純粋な学問であつたとしても、一たん上司の命令によつてはこれを拒絶することはできないだろう。一部の例かもしれないが、警官は結婚するにも上司の許可が要るときいている。権力の前にあつては個人の意思などはかくも無残に踏みつけられる。この岡氏の場合も当然権力機構のなかにある人間として考えなければならぬ。逆コース風潮の最中にあつて問題は決して小さくはない。あえて全学生に訴える。

きない。まして教授会で正式に決定し、純粋に学問のうちこんでいるものを理由なく聴講許可を拒絶することはできない。よく話せば学生も了解してくれると思う、とそれぞれ異つた意見を述べている。

### 騒ぎたてるのは当をえんない

▽久木教務部長（教授）談 警官の素質低下が問題になつている今日、国家としても警官の教養を高める意味で何ら不慮論はない。相応した学力と学問への熱意があれば職業の如何にかか

権力と力カニスムのなかにあつ

と重要視している。

